



SAIJO
LIONS
CLUB

西条



ライオンズクラブ国際協会創立者
MELVIN JONES



毎年行っていたゆるぎ荘・星の里での「餅つき大会」がやむなく中止となりましたが
クリスマスプレゼントを両施設へ届けました

No. 523

1

月号 2021

ライオンズクラブ国際協会 336-A 地区
2R4Z 西条ライオンズクラブ 広報誌



2020-2021 ライオンズクラブ国際協会会長 ジュンヨル・チョイ

テーマ 「 We Serve 」

2020-2021 ライオンズクラブ国際協会 336-A地区

スローガン「 Service Activity is the key to Lions Clubs 」

2020-2021 336-A地区ガバナー 酒井公一

スローガン「 誇り・進化・輝く未来に ウィサーブ 」
キーワード「 会員ファースト 」



2020-2021 西条ライオンズクラブ第60代会長 宮崎英明

スローガン「 感動で 一つの心 We Serve 」
キーワード「 絆 」

新年ご挨拶



第60代会長 宮崎英明

初春を寿ぎ、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、7月より我ら宮崎丸はコロナ禍の荒波舞う苦難多き1年のスタートを切りました。奇しくもクラブ結成60周年目を迎える記念すべき年、5月には周年大会を催行する予定になっており、この1年は記念事業と通年事業の実施で多忙極まるであろうと小さな覚悟をもってゴングを叩きました。

しかしながら、新型ウィルスは未だ収まる気配が無く、通常例会でさえも普段通りの開催が危ぶまれる有様、計画していたアクティビティーの相次ぐ中止、西条ライオンズクラブの真骨頂とも言える、会員間の固い絆でさえも希薄となるような行動を強いられる状況に正直、頭を抱える毎日でした。

しかしながら、ないない尽くしで流れに任せ、我慢しているだけの我クラブではありません。例会は工夫をして開催し、中止となった事業は携わり方を考案し新たな事業を生み出し、記念事業の方も今の社会状況の中で出来得る内容にし、ようやく動き始めました。

全ては互いを、周りを思い合う心ひとつです。

さあ、もう大丈夫です。

苦難に苛まれた昨年の出来事は新しい年の行動の糧にし、周年大会に向けて会員間の友愛、絆を確固たるものにすべく、共に手を取り進んで行きましょう。

そして、困難なこの社会状況下で60周年をやり遂げた先にある、クラブメンバー全員が晴れ晴れとした顔つきで見る景色それこそが、我がクラブの未来への提言になるものと確信しています。

本年も、宜しく願い申し上げます。



【 年賀者 】

傘 寿	越智英明	昭和 17 年 11 月 19 日生
喜 寿	伊藤孝司	昭和 20 年 11 月 10 日生
古 稀	寺川治美	昭和 27 年 11 月 15 日生
還 暦	安藤和浩	昭和 36 年 1 月 4 日生

おめでとーございませす

傘 寿



越 智 英 明

ついに私もこんな年令に達しました。

今迄、あまり年令を意識せずに生きてきたつもりですが、原稿依頼を受け、改めて思った次第です。私の父は 100 才、母は 94 才、で共に認知症にもならず、天寿を全うしました。

両親の DNA を受けていればもう少し頑張れるのではと思います。

今のところ、体調もまずまずですので、ウイ、サーブの精神と生涯現役をモットーにつとめてまいりますので、メンバーの皆様、どうか本年もよろしくお願いいたします。



喜 寿

伊 藤 孝 司

調べてみると、喜寿の風習が始まった室町時代の頃は、77 歳も厄年だったそうだ。七十七に「喜」の字を当ててお祝いすることで、難を逃れる意味もあったという。

私にとっては、難ということもないが、コロナ、コロナと皆が大変な時分。世界にとって厄年だった昨年である。わが身を振り返ると、このごろは、手指の消毒、マスクの着用、すっかり習慣づいてきた。更に驚くべきことは、さまざまな書類も、紙ではなく電子メールで届くようになっている。今更、流行りものを追いかけるような性分でもないが、この歳になって、新しい習慣も増えてきているのである。

しかしながら、世の中が変わろうとも、喜寿を迎えようとも、人の心は変わるものではない。これからも家族の為、友人の為、変わらず元気で頑張っていこうと、ただそれだけの想いである。あわせて。令和 3 年は、改めてオリンピック・イヤーである。今年こそ、喜ばしい一年になることを切に願うところである。

古 稀



寺 川 治 美

古希を迎えて 68 年を振り返ってみると、色々とありましたが、あっと言う間に駆け抜けてきた思いがします。節目の 42 歳の厄年を迎えたと思ったら、還暦を迎えもう古希の祝いです、数え年で 70 歳を迎える年になりました。昔は還暦 60 歳を迎えると長寿をお祝いし、70 歳を迎えると「人生七十古来稀」の杜甫の詩のように 70 歳を迎えるのは稀であるとして古希の希を稀と書き、昔から節目を祝い大切にきて来ました。今は平均寿命が延びて、まだまだ長寿とは言えませんが一般的には高齢者と呼びます。最近は同級生たちと会うと話題は健康の話から病気自慢に、年金の話に老後の話から親の介護の話になっていきます。本人はいつまでも若いつもりですが、月日は無情で見かけも中身も確実に変化しています。私も 90 歳を過ぎた両親が高齢者住宅に入居しました。両親が居なくなり少し寂しくなった両親の家で、これまでは親任せで何もしていなかった仏壇に、毎朝水を上げ両手を合わせて拝むことを日課にしています。これも高齢者になったということでしょうか。これからの人生どう生きるか、手を合わせ仏様に問かける事もありますが、結論は成るようにしか成らないと言う結論しか出てきません。コロナ禍で令和 2 年は閉塞感の一年でしたが、早くコロナが収束する事を願いながら、まだまだ仕事に頑張り、ライオンズクラブの奉仕活動も続け行きたいと思ひます。



新年明けましておめでとうございます。

本年は年男。そして、早いもので還暦という人生の大きな節目を迎えることができました。

これまでの私は、猪突猛進、とにかくがむしゃらに生きてきましたが、これからも前向きに若さを失わず、まだまだ大きな夢に向かって精進して参りたいと思っています。

これまでお世話になりました皆様に心より御礼申し上げますとともに、今後とも、ご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願いいたします。

第1回336-A地区2R新会員オリエンテーション開催

リーダーシップ（指導力育成）研修会開催

【オリエンテーション受講者】 高田潤一 【引率】 花山志郎会員委員長

【リーダーシップ研修会受講者】 日野克則



11月28日（土）2020年度第1回新会員オリエンテーション・リーダーシップ研修会が開催されました。私（高田潤一L）は新会員として、日野克則Lは、リーダーシップ研修会へ参加しました。

【新会員参加者数：23名，リーダーシップ研修参加者数：19名】

各クラブ引率者（西条LCは花山志郎L）から新会員参加者の紹介の後、西原透 元地区ガバナー・地区名誉顧問から、講師として、ライオンズの沿革と歴史や組織と役割、そしてモットーである奉仕活動の意義や目的について説明がありました。

1917年に、メルビン・ジョーンズによって創設され、今年で103年、何故百年も続いているのか、それには理由があるはずで、ビジョンや使命で謳われているように、「先ず奉仕活動に参加し、人的ネットワークを広め、深めながら、自らの成長の糧となるよう信頼、尊敬できる先輩方々と交流してほしい」旨のアドバイスをいただきました。

また、1925年にヘレンケラーからライオンズへの、「盲人のために暗闇と戦う騎士となれ」とのスピーチを受け、白い杖に赤いリボンをつける運動のきっかけとなった等、ライオンズの長い歴史の中の所以を勉強するいい機会となりました。



シリーズ 伊予西條遺産

～ テーマ ～

良き街・西條（藩）の記憶
西條藩と紀州藩

かつてこの地域は「伊予西條藩」として、寛永13年（1636年）から「一柳直盛（ひとつやなぎなおもり）」が治めることとなったが、入封の途上で没し、3人の息子により領地を分割。直盛の長男「直重（なおしげ）」が藩主となるも、藩主を継いだ息子の「直興（なおおき）」が職務怠慢のため、寛文5年（1665年）に改易処分となり、この地域は天領となった。

5年後の寛文10年（1670年）、紀州藩初代藩主「徳川頼宣」の三男「松平頼純（よりのずみ）」が紀州藩の支藩として3万石で入封。紀州徳川家が途絶えた場合に備えるための、紀州徳川家の分家とされる。

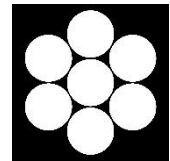


頼純の息子で西條藩2代藩主の「松平頼致（よりのよし）」は、従弟にあたる徳川吉宗が将軍となったため紀州徳川家を継ぐこととなる。

名を「徳川宗直（むねなお）」と改め、紀州藩6代藩主として41年に渡り紀州の地を治めるなど、本家とのつながりの深さがうかがえる。

西條藩は版籍奉還まで10代に渡り、紀州藩の支藩として治められ、西條市内には現在もその歴史が息づいている。

西條藩に残る「文化七年御家中官禄人名帳」によると、藩主に限らず家来衆の人的交流も盛んであったことがうかがえる。



文化7年（1810年）当時、紀州藩から27名が西條藩士として西條藩に入り、中には家老を務める者もいた。いわば本家からの出向のようなもので、西條藩の上級藩士は紀州藩で占められていたという。そのため、藩士とその家族らが江戸を行き来する際は紀州に立ち寄るなど、紀州と西條の結びつきは強いものであったという。

また、これらの藩士がもらう俸禄（給与）は紀州藩から支給され、それに加え「豫洲（よしゅう）」と呼ばれる西條藩からの俸禄もあったという。豫洲（予州と書くこともある）とは西條藩のことで、両藩から禄が支払われるこの制度は稀なものであったとされる。人だけでなく、藩財政についても本藩からの支援を受けていたという。

西條藩初代藩主の松平頼純は西條へ入る前の寛永八年（1631年）から紀州藩内で5万石を分知されていた。



西條藩へ入るにあたり分知されていた領地を返し、西條藩3万石の領地を手にするも、差額として2万石が発生。この差額を紀州藩からの支給により補填されることとなり、合力米の名称で、紀州藩の財政状況により支給量は変動するも支援は版籍奉還まで続いたと、南紀徳川史に記されている。

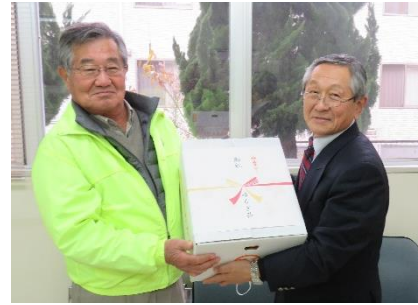


年末恒例事業報告 「星の里」「ゆるぎ荘」へクリスマスプレゼントを！

環境保全保健福祉アラート委員会 松浦裕

本来 12 月第 1 土曜日に実施されていた愛寿会病院「ゆるぎ荘」と「星の里」の餅つき奉仕が今年にはコロナ禍の影響で中止せざるを得なくなりました。しかし来年のこともありこのまま事業が途切れるのもまずいとのかから執行部とも相談した結果、今回はクリスマスプレゼントを両施設に持参することにしました・12 月 24 日のクリスマスイブの日に宮崎会長、伊藤幹事と委員会のメンバーが手分けしてクリスマスケーキを中心にプレゼントを提供しました。

このような時期、入所者や職員の皆様の一部の方しかお会いできませんでしたがすごく喜んで下さり、来年につなげることができたのではないかと安どした気持ちです。



No. 24 加藤弘道

①好きな食べもの

肉類全般

②好きな本

まったく読まない。新聞は読む。

③好きな音楽

70～80年代の曲

④好きな車

クラウン

⑤好きな場所

サウナ（温泉）のある所

◎新型コロナウイルスに思う事

コロナも生物である以上、一生懸命に生きている。人間が自然をコントロールできるわけではない。

編集後記



昨年は、本来ならば東京オリンピックが開催され、世界中から人々が集まり、素晴らしい年になるはずでありましたが、誰が予想したか、私達がまだ経験したことがない新型コロナウイルスの中での大変な一年でありました。今年もまだまだ先の見えない不安なスタートになりましたが、コロナ禍のなかにも皆様が穏やかに過ごせることができますことを祈るばかりであります。

皆様の今年一年のご健勝と益々のご活躍を心より祈念申し上げます。

MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員

安藤和浩

西条ライオンズクラブ

発行者 会長 宮崎英明
幹事 伊藤正己
[MC・ライオンズ情報・地区誌・大会参加委員会]
委員長/副委員長 盛實正人/小野雅志
編集委員 越智英明・寺川治美・日野克則
安藤和浩・高田潤一

〒793-0027 愛媛県西条市朔日市779-8
西条商工会館3F

TEL(0897)56-3980

FAX(0897)56-9251

E-mail saijo-1c@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ http://saijo-lions.jp

facebook http://facebook.com/saijo.lions/